

「〇〇御殿」とか「〇〇成金」を調べてみると、北海道とはこんな所だったのだなど、地域や産業の栄枯盛衰、推移の状況が端的に解って非常に面白い。

成金と言うのは、将棋で「歩」が相手側の陣地に乗り込むと一躍「金」に成り上がることからきた言葉で、急に金持ちになることを言う。この流行語ともなったあだ名は、明治末年、熱狂的な株式ブームで一挙に 200 万～300 万円の巨利をつかんだ鈴木久五郎に最初につけられた。そこには、軽蔑と嘲笑がこめられている。後述するように、成金が大規模に増えたのは、第一次世界大戦特需の時代である。

I 戦前の成金

① ニシン御殿

明治期における北海道の漁獲高は、全国のその、明治 24 年においては 26.9%、明治 44 年においては同じく 28.7%と極めて高い地位を占めている。(道史 514) 明治時代になると、網元による経営が盛んになり、明治の後半から大正の初めにかけて最盛期になり、「やん衆」と呼ばれる東北から出稼ぎが多くなった。北海道最大の漁獲物である鯨は、明治 30 年をピークとして激減したとは言え、明治 41 年においても依然として総漁獲高の 6 割弱を占めていた。面白いのは、乱獲と回遊の変化の要因の両々相まってか、かつて全盛を極めた渡島地方から明治期には、後志地方が主産地となり、また後志も次第に衰退して北上して行った。漁獲された鯨は、生売りは少なく、鯨粕等に製造された。漁業の実権は、大漁民と言われる一部の漁業者に握られていた。彼等は、鯨大尽と呼ばれ、豪壮な鯨御殿(鯨番屋とも言われる)と呼ばれる家を建てた。鯨御殿は、次に述べるように、日本海側に主として見られる。例えば、寿都の橋本家の番屋(1880)、苫前町の岡田家の番屋(1886)、寿都の佐藤家の番屋(1887)、山形県遊佐町の総檜作りの青山家(1890)、泊村の川村家の番屋(1894)、小平町の花田家の番屋(1905)、泊村の竹井家の番屋(1916)、小樽市の青山家(1916)、留萌市の嵯峨家の番屋等。江差の横山家、

小樽の鯨御殿は、積丹半島の網本が泊村に建設したものを移築したものであるが、現在では、道の有形文化財に指定されている。

② 第一次世界大戦による特需)

1914 年 7 月勃発した第一次世界大戦、日本も青島及び南洋諸島の攻略、地中海への艦隊の派遣、シベリア出兵を行ったが、殆ど大きな戦闘には参加しなかったと言ってよい。この大戦及び戦後の一時期、日本は、大戦特需とも言うべき好景気に沸いた。船成金、鉱山成金、株成金、鉄成金、土木成金等。北海道では、「北海道の三大成金」と言われた、薄荷成金、豆成金、澱粉成金が勃興した。

● 薄荷成金と薄荷御殿(北見市)

北見地方は、1900 年頃には薄荷の生産に成功し、1935(昭和 10)年には、北見に工場が設立され、北聯ブランドの薄荷脳及び薄荷油が世界に輸出された。大戦後には投機作物となり、耕作面積が世界一になった。関東大震災で在庫が焼失した事もあって価格が急騰し、薄荷景気に北見地方は沸いた。薄荷御殿は、大地主で薄荷商の五十嵐氏の私邸として建てられたもので北見市街地から 15km 離れた「仁頃は

っか公園」にある。

● 豆成金

十勝は豆王国である。豆は肥料を余り必要とせず、手間もかからなかった。大戦の勃発により、菜豆（インゲンマメ）とエンドウマメの国際価格が急騰し、豆成金が続出した。当時木賊原（とくさわら）遊郭と呼ばれた花街では、豆成金者が、玄関先で、お札に火をつけて履物を探したとか言われたものである。第二次大戦後は、小豆が赤いダイヤといわれ、投機の対象となり、1,970年頃までは相場に一喜一憂する時代が続いた。不思議なことに豆御殿なるものは寡聞にして知らない。豆御殿が存在しないのは、何故だろう。泡銭身につかずと言う事だろうか？

*木賊原（とくさわら）遊郭：明治32年に下帯広村で営業許可された遊郭は、多年草の木賊（とくさ）が自生していたため、こう呼ばれた。全盛期には、9軒、遊女100人を超えたと言われる。

● 澱粉御殿

細部不明

II 戦後の成金・御殿

① スケソウ御殿

北海道に水揚げされる魚で年間百万トンを超えたのは、明治時代の鯨（ニシン）とこれから述べるスケソウダラとマイワシのみだ。スケソウ漁は、北洋での漁業が主で、底挽網漁船は北転船と呼ばれた。1,980年頃から、漁場と割当量が削減され、漁獲量が減少した。ところがこの頃から、羅臼のスケソウ漁が常に大漁という時代を迎えた。スケソウは、冷凍すり身技術が開発され、かまぼこや魚肉ソーセージの原料として需要が大きい。スケソウ御殿が新築されたけれども、羅臼のスケソウ漁も10年程度であった。

② ホタテ御殿

日本最北の村、猿払村は人口3000人程度。日本一の生産量を誇るのが「ホタテ」であり、加工工場には貝殻の山だ。ホタテ養殖で一躍億万長者になり、全村が潤った。全予算を注ぎ込んだ英断には敬意を表すが…。ホタテ漁で財を成した人たちが建てた家がホタテ御殿と呼ばれている。

③ 鮭御殿

知床沖は、豊かな漁場であり、ウトロ周辺の網元や猟師の家の中には鮭御殿と呼ばれる豪壮な家も多い。

III その他、広大な土地を払い下げられて成功した地主の豪邸が「あかがね御殿(黒田御殿)」

(野付牛)、長沼町の御殿桜で有名な「横田陣屋御殿」、稚内や宗谷には、「タコ御殿」が、北見地方には、「たまねぎ御殿」「ニンジン御殿」と呼ばれる家もあるようだ。赤平には炭鉱全盛時代に建築された通称「山田御殿」、興部には貴族院議員の為に迎賓館として建築された、「米田御殿」と言うものもある。

(参考：百科事典、各種のHP)